

第3項 第2回アンケート調査結果

1 調査の概要

（1）調査の目的

東日本大震災を受けて4月に東京都が公表した「新たな被害想定」の結果を踏まえ、今後大田区において災害に強い市街地を形成していくうえでの参考とするため、及び「現在の道路」と「今後の道路整備と維持管理の視点」について意見をうかがい、道路のあり方を検討する参考とするために実施した。

（2）調査の項目

①災害に強いまちづくり

- ・東京都の「新たな被害想定」の認知度
- ・区の被害想定概要の認知度
- ・延焼火災について不安を感じる事
- ・災害に強いまちづくりを進める上で対象とすべき範囲
- ・災害に強いまちづくりを進めるための方法
- ・災害に強いまちづくりを進める上での周知の方法
- ・自由意見

②道路の整備と維持管理

- ・道路に対する不満
- ・不満を感じる道路
- ・不満を感じる交通手段
- ・「道路工事調整会議」の認知度
- ・道路工事に対する不満
- ・今後の道路整備で最も重視すべき機能
- ・今後の道路整備で特に配慮すべき事業
- ・今後の道路整備の優先順位
- ・地域を主体とした区道上の植栽帯の維持管理への参加意向
- ・自由意見

（3）調査の設計

①調査対象 大田区区政サポーター（第1期）

②標本数 97サンプル

（うち郵便によるサポーター44名、Eメールによるサポーター53名）
（転出等により、サポーター数は変更している）

③調査期間 平成24年9月13日（木）～9月27日（木）

（4）調査票回収結果

①調査票配布数 97票

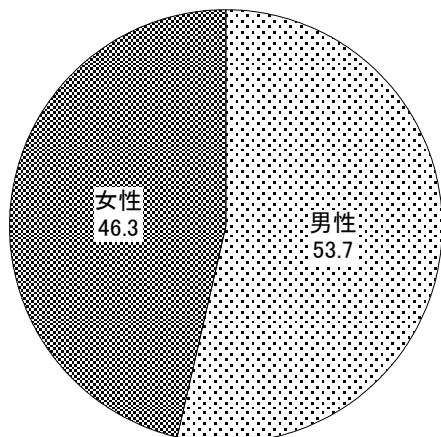
②調査票回収数 82票（うち郵便41票、Eメール41票）

③有効回収率 84.5%

II アンケート調査 (第2回)

(5) 回答者の属性

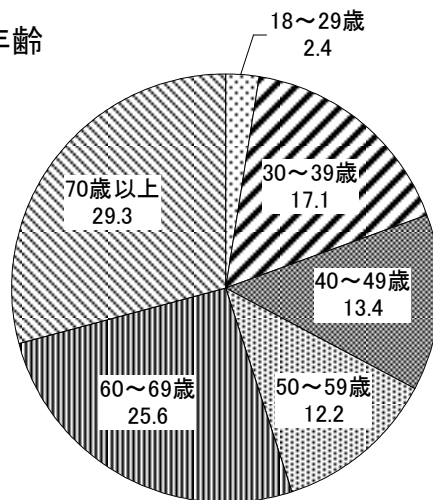
①性別



(n=82)

(%)

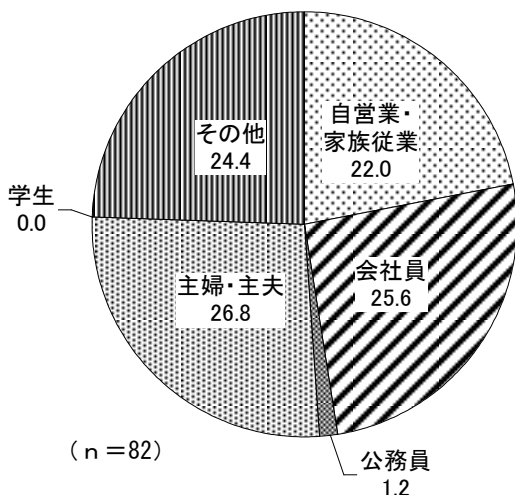
②年齢



(n=82)

(%)

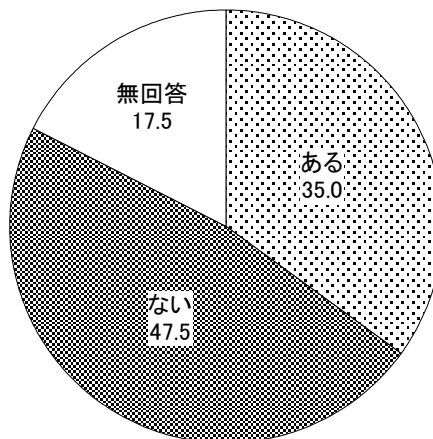
③職業



(n=82)

(%)

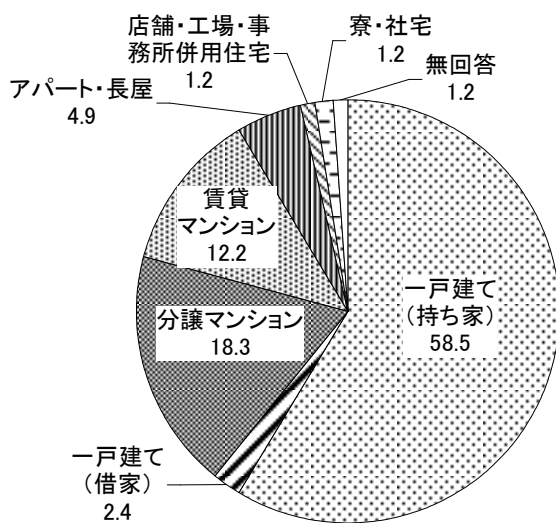
④仕事上の自動車の運転の有無



(n=40)

(%)

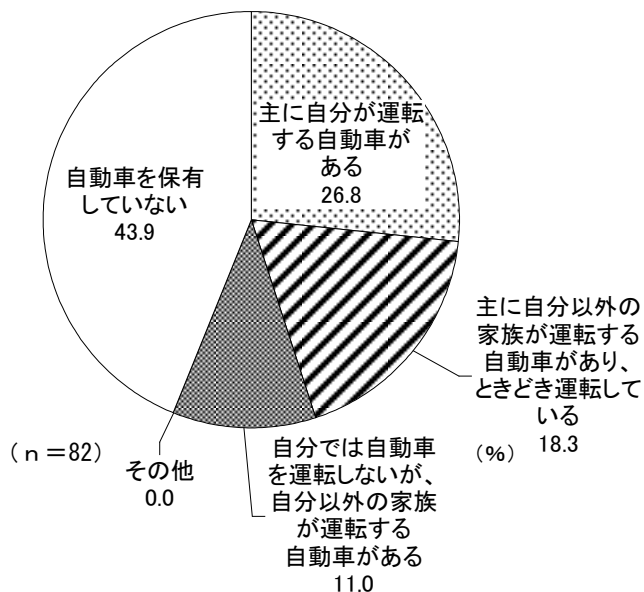
⑤住居形態



(n=82)

(%)

⑥世帯の自動車保有状況



(n=82)

(%)

（6）担当課コメント

①「災害に強いまちづくり」（都市開発課防災まちづくり担当）

今回の調査では、延焼火災に対する不安な点として「木造建築物が密集している市街地が広がっている」「身近な道路は災害時に避難及び緊急車両の通行に支障が出るおそれがある」の2項目でそれぞれ累計70%を超える回答をいただきました。また、災害に強いまちづくりを進めるにあたっては、その範囲を「特に災害に脆弱な範囲に限定して実施すべき」とする回答が最も多かった一方で、「区全体・可能な限り広範囲に実施すべき」とする回答も多数いただき、その進め方については「区が積極的に主導すべき」や「区民も協力すべき」とする回答をいただきました。

今回のご意見を参考に、区全体の災害に対する安全性を底上げできるよう、区民の皆様のご協力をいただきながら『防災まちづくり』を進めてまいります。

②「道路の整備と維持管理」（都市基盤管理課）

今後優先する道路整備について、「計画が決定されている比較的幅員の広い都市計画道路を優先して整備する」という意見より、「比較的幅員の狭い道路の充実を図る」という意見が若干多い結果となりました。

道路を利用している時の不満として「歩道がない、もしくは狭い」という意見が最も多く、あわせて、今後の道路整備で重視すべき視点として「交通安全の確保」という意見が最も多く、課題が浮き彫りとなりました。

今後も着実に比較的幅員の広い都市計画道路の整備を進めるとともに、区政サポーターの皆様からいただいた貴重な御意見を踏まえ、比較的幅員の狭い道路につきましては交通安全確保の観点から個別具体に対策を検討しながら道路整備を進めてまいります。

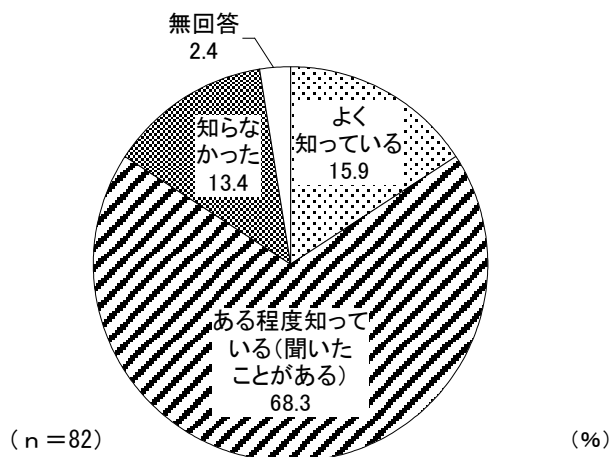
2 災害に強いまちづくり

(1) 東京都の「新たな被害想定」の認知度

昨年の東日本大震災を踏まえて、平成24年4月に東京都が新たに「首都直下地震等による東京の被害想定」(新たな被害想定、別添「参考資料」参照)を公表しました。

この想定によると、大田区ではゆれ等による建物の倒壊件数が増加し、また木造住宅が密集した地域以外でも延焼火災が発生すると予想されています。

問1 この東京都の「新たな被害想定」についてご存知でしたか。(○は1つ)

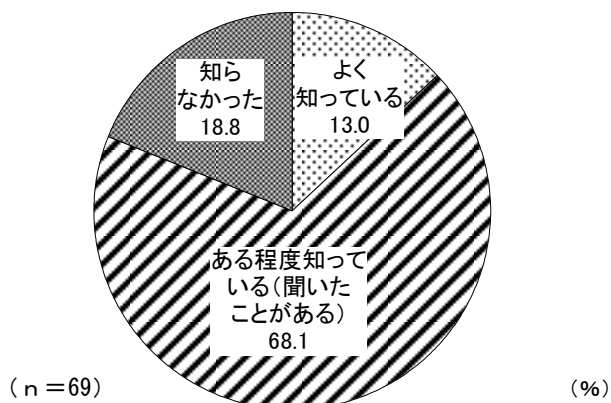


平成24年4月に東京都が公表した「新たな被害想定」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」が15.9%で、「ある程度知っている(聞いたことがある)」が68.3%となっている。「知らなかった」は13.4%である。

(1-1) 区の被害想定の詳細の認知度

(問1で「よく知っている」「ある程度知っている(聞いたことがある)」とお答えの方に伺います)

問2 大田区の被害想定の詳細についてご存知でしたか。(○は1つ)

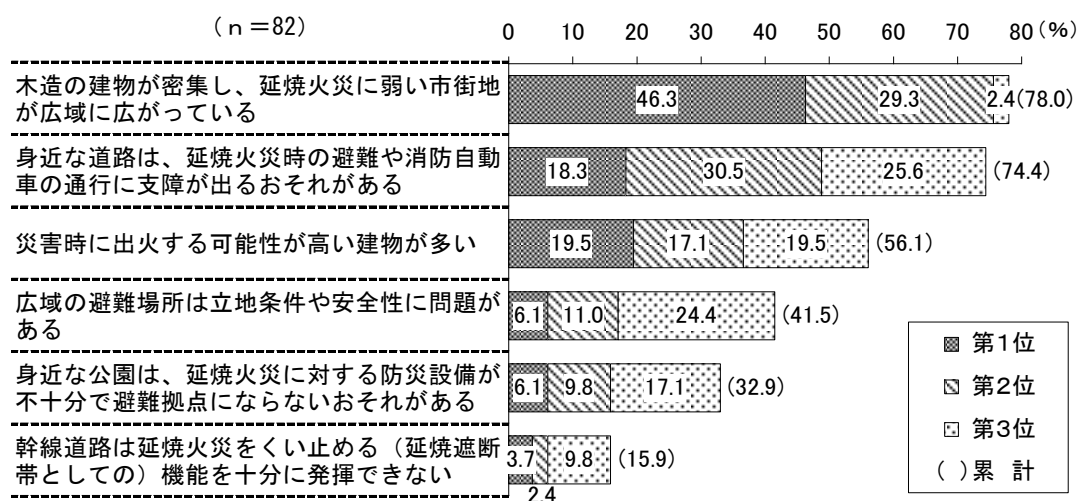


平成24年4月に東京都が公表した「新たな被害想定」を「よく知っている」または「ある程度知っている(聞いたことがある)」と答えた人(69人)に、大田区の被害想定の詳細について知っているか聞いたところ、「よく知っている」が13.0%で、「ある程度知っている(聞いたことがある)」が68.1%となっている。「知らなかった」は18.8%である。

(2) 延焼火災について不安を感じること

「新たな被害想定」によると大田区は延焼火災による被害が東京23区の中でも特に大きくなると想定されています。

問3 延焼火災に対して、次のような問題が考えられますが、この中で、あなたが特に不安を感じることは何ですか。最も不安に思うものから3番目まで順位をつけて、下の回答欄に番号を記入してください。



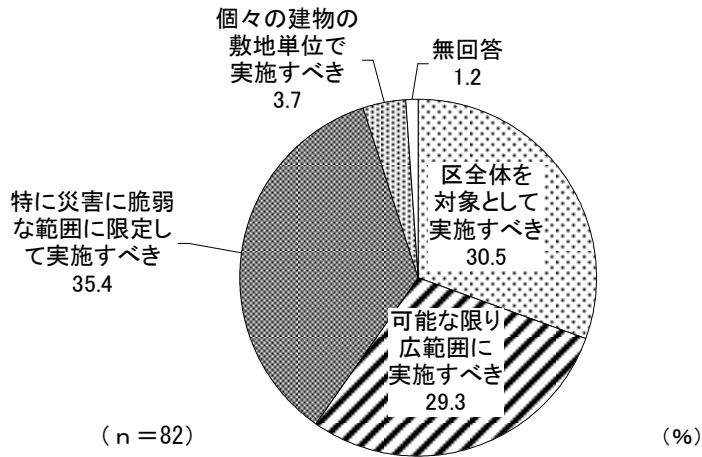
延焼火災に対して考えられる6つの問題のうち、不安に思うことを上位3項目まで挙げてもらった。第1位では、「木造の建物が密集し、延焼火災に弱い市街地が広域に広がっている」が46.3%で最も高く、次いで「災害時に出火する可能性が高い建物が多い」(19.5%)、「身近な道路は、延焼火災時の避難や消防自動車の通行に支障が出るおそれがある」(18.3%)の順となっている。

第1位から第3位までの累計では、「木造の建物が密集し、延焼火災に弱い市街地が広域に広がっている」が78.0%で最も高く、次いで「身近な道路は、延焼火災時の避難や消防自動車の通行に支障が出るおそれがある」(74.4%)、「災害時に出火する可能性が高い建物が多い」(56.1%)の順となっている。

(3) 災害に強いまちづくりを進める上で対象とすべき範囲

「新たな被害想定」では大田区の広範囲に延焼火災の発生が予想されています。被害を最小限に抑えるためには、延焼火災に強いまちづくりを進めていく必要があると考えられます。

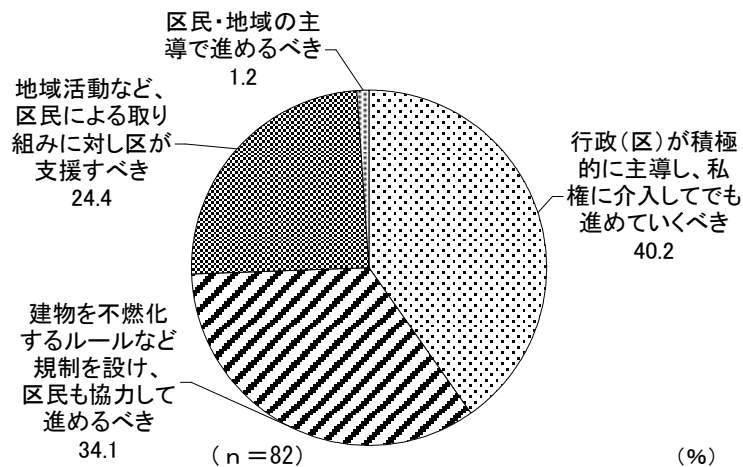
問4 災害に強いまちづくりを進めていくにあたり、どのような範囲で実施していきべきだと思いますか。(○は1つ)



災害に強いまちづくりを進めていくにあたり、どのような範囲で実施していきべきか聞いたところ、「特に災害に脆弱な範囲に限定して実施すべき」が35.4%、「区全体を対象として実施すべき」が30.5%、「可能な限り広範囲に実施すべき」が29.3%で、この3項目が拮抗している。「個々の建物の敷地単位で実施すべき」(3.7%)はわずかである。

(4) 災害に強いまちづくりを進めるための方法

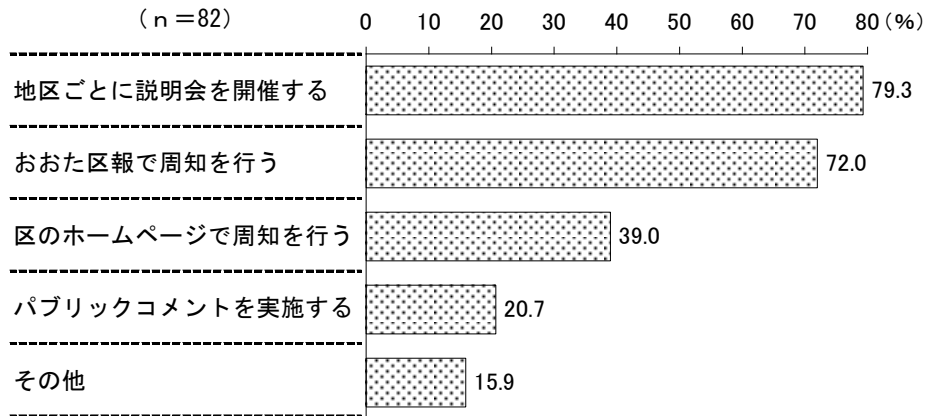
問5 延焼火災に強いまちづくりを推進していくには、進め方をどのようにすべきだと思いますか。(○は1つ)



延焼火災に強いまちづくりを推進していくには、進め方をどのようにすべきか聞いたところ、「行政(区)が積極的に主導し、私権に介入してでも進めていくべき」が40.2%で最も高く、次いで「建物能不燃化するルールなど規制を設け、区民も協力して進めるべき」(34.1%)、「地域活動など、区民による取り組みに対し区が支援すべき」(24.4%)などの順となっている。

(5) 災害に強いまちづくりを進める上での周知の方法

問6 「新たな被害想定」を受けて延焼火災に強いまちづくりを推進していくのに際し、区はどのように周知等をすべきだと思いますか。(〇はいくつでも)



延焼火災に強いまちづくりを推進していくのに際し、区はどのように周知等をすべきだと思うか聞いたところ、「地区ごとに説明会を開催する」(79.3%)と「おた区報で周知を行う」(72.0%)の2項目が7割台で高くなっており、次いで「区のホームページで周知を行う」(39.0%)、「パブリックコメントを実施する」(20.7%)の順となっている。

2-1 自由意見

問7 延焼火災などの災害に強いまちにしていくためには、規制の強化などいろいろな手段があると思われませんが、あなたのご意見をご自由に記入してください。

延焼火災などの災害に強いまちにしていくための意見を自由記述形式で聞いたところ、58人から61件の回答があった。内容を分類した上で、以下、原則として記述の原文を掲載する。

1 防災の取り組みについて（19件）

（1）防災訓練（5件）

- 区域ごとに消防訓練、避難訓練などを日頃から行い、耐震性のある建物など危ないところから、直して行く。これには行政もかかわる。（女性・30代・蒲田地域）
- 防災訓練などのイベントについては区報などで情報を得られているが、開催場所が近所でなかったり、日時の都合がつかなかったりしてまだ参加できていない。事前に各地域で参加可能な日をえらべたりはできないものか。手間はかかるがこういう作業をプラスすることで、もっと自主的に参加しやすく、参加しなければならないと考えるようにしてもらえると助かる。また、集合住宅に住んでいて自治会にも入っていない人達にも義務付けて、日頃からの訓練行事に参加させられるよう区・町内会のはたらきかけが必要。と思う。（女性・30代・糀谷・羽田地域）
- 昔からの狭い道路・木造家屋の多い地域なので、延焼は免れないと思われます。一人一人が火には気を付けているとは思いますが、いざという時にきちんと対応できるか確認の避難訓練をすべきで、皆で集合してワイワイと避難場所に移動するなどというのは陳腐です。（女性・60代・大森地域）
- 災害が発生した場合、被害想定に基づき、確実に対処出来る様に日頃の訓練を含めて周知徹底することが望ましい。（男性・60代・大森地域）
- 地域参加型の講演会・訓練など。（女性・40代・調布地域）

（2）災害に備えた準備（5件）

- 建物の点検。高齢者世帯・一人暮らしの人の状況を確認する。（女性・70代以上・調布地域）
- 各自防火設備を充実する。負担になる場合は、区からさらに強く言ってもらおう。（女性・60代・蒲田地域）
- 地域の消防団の若い世代の隊員増強と、消火活動に有効な機材の増強と整備。（男性・30代・糀谷・羽田地域）
- 規制として各家にポリタンク2個程度の水を保管させる。（男性・70代以上・調布地域）
- 建て増しやリフォームなどで、複雑な間取り等になっているように見受けられる家があると思います。安全性などは分からず、プライバシーの為に疑問に感じられます。特に空き家になっている家の管理を充分にしてほしいです。不安です。（女性・60代・調布地域）

(3) 防災に対する意識 (7件)

- 各家庭、地域の状況把握、それすらもできていないと思います。(男性・30代・大森地域)
- 規模・時期及び時刻・風速ですが被害は原因がゆれによるもの、地震火災が大きいです。帰宅困難者・避難者は多くいます。心構えが大事です。耐震・防災・予備などがあるといます。(女性・50代・蒲田地域)
- 各地区で入念な話し合いをやる。(男性・70代以上・糶谷・羽田地域)
- いざという時のために、日ごろから地域で連携を取っておく必要がある。地域住民が気軽に集える場を作ってほしい。(女性・30代・蒲田地域)
- 地域の防火訓練、設備・用具の充実等、日常的に行なわれるよう、町会の意識と、人的協力体制の確立。ならびに区からの費用含めた支援。高令化や一人暮らしの人々が増え、個々での自衛がむずかしく、町会等の活躍が望まれる。町会も高齢者が多く負担だが、意識改革で地域の自衛努力必要。(男性・60代・大森地域)
- 規制は必要ですが、個々の住民の危機意識を高める必要があります。そのために広報も必要ですが、町会等の組織を利用する。説明用のPRスライド等を作成し各町会の会合に順次利用できる用意をする。(男性・70代以上・調布地域)
- 住民自身が自分のエリアがどの程度リスクがあるのかを認識し、そのためにどういう規制を守っていくことが必要か理解する必要があると思います。(女性・30代・蒲田地域)

(4) 区の情報発信 (2件)

- 日々の防災意識を高めるための情報発信が必要である。(女性・40代・調布地域)
- 木造密集地で火事が出て広がり、その火が飛んでくるのを恐れています。3月11日も近所で火事が出てこわかったです。地震でおきる火事にはどのような例があるか、すべて例示して区報に載せてほしいです。(女性・50代・大森地域)

2 災害に備えた道路整備 (9件)

(1) 生活道路について (7件)

- 道路が狭く、災害時に避難できるか現状では心配です。(男性・70代以上・蒲田地域)
- 我が家は長い私道の突き当たりであり、道路に出るまでに17軒の家があるため、そのどこかで火災が起きた場合にまったく逃げ場がなくなってしまいます。道路から何メートル以上の通り抜けのできない道路には災害時に使用できるようにもう一つ通路を作る、などの条例なりができてくれると嬉しいです。(女性・30代・大森地域)
- 狭い道路や路地は広くして、家と家との間隔をとらなければ解決できないと思います。
(男性・70代以上・大森地域)
- 道路幅は最低でも3~5m以上を保つ。隣棟との幅は確実に守らせる。
(男性・70代以上・大森地域)
- なるべく広い公園を設ける。そして周囲に樹木を植え、防火草とする。狭い道路は最低でも4m確保できるような道路整備。後退できる所は揃えて広げて行く。(女性・60代・大森地域)
- 狭あい道路の削減。(男性・30代・大森地域)
- 区内全域について、早期に4m道路へ整備してほしい。(男性・70代以上・調布地域)

II アンケート調査（第2回）

（2）幹線道路について（2件）

- 他の区で実施しているところもあるようですが、幹線道路で延焼火災をくい止めるように整備していくこともひとつかなと思います。また延焼火災の他に、液状化現象や津波対策も必要ではないかと個人的には思います。（男性・40代・蒲田地域）
- 幹線道路の拡幅（8m以上）工事を積極的に。また、電線等の埋設。美観上も有効。（男性・70代以上・調布地域）

3 延焼火災に強いまちづくり（30件）

（1）建物を対象とした規制（15件）

- これから建てる建物は耐火構造とする、今までの建物は必ず火災報知器をつけるなどの規制をする。（女性・50代・調布地域）
- 特に東京の都市部は家と家の間隔が全くないです。現在建っている物件は仕方がないので、今後建設の際は幅広くしてもらいたいです。それで延焼火災も最小限に抑えられるのではないのでしょうか。（男性・40代・糎谷・羽田地域）
- 20坪以下の宅地分譲を不許可とするなどミニ開発を制限する。自治会や町会にスタンドパイプを沢山配備し、消火訓練を定期的実施する。（男性・70代以上・大森地域）
- 地域、自治会単位で規制強化しても、今の風潮がプライバシーなどを理由に介入していけない部分があるかと思うので、区が多少なりとも公共の施設のみならず個々の場所についても少し厳しい規制を作ったらよいかと思います。（女性・30代・大森地域）
- 老朽化し災害発生時に出火の恐れがある建物を優先的に規制できるようなルールをつくり実行していくことが必要である。（男性・70代以上・大森地域）
- 地震と火災に強い家づくり・街づくりを目指して、法的な強制力をもって推進する。（男性・60代・大森地域）
- 火災を防ぐ事の周知を進め、同時に木造家屋の調査を進める。さらに、家を建て直したりリフォームする場合に区から助成金を出すことの検討。火災の被害が大きいと発表された地域を優先に取り組む。道路拡張も必要だが、地権者や住人との対立が生まれる可能性は高いので慎重にやるべきと思う。（男性・20代・糎谷・羽田地域）
- 特に密築地域内の木造住宅の規制を強化する。火災に強い樹木を緑化条件とさせる。同時にすでに植樹されている立木は伐採を規制する。（男性・70代以上・大森地域）
- 住宅を建設する際の違法をなくし、建ぺい率を守らせる。住宅が密集している地域が多いので無理だと思う。（女性・60代・大森地域）
- 立ち退きが必要な時に、粘り得がないようにしてほしい。（女性・60代・蒲田地域）
- 現在助成の対象にならない不適格建築物等に助成すべきである。（男性・60代・蒲田地域）
- 耐震対策と同様に、無料診断と対策補助制度を実施する。（男性・60代・蒲田地域）
- 燃えにくい建材使用等に補助金を交付する。（男性・30代・大森地域）
- 建物から建物へと火災が移らないような素材の導入。リフォーム、対策等と周知し、それにかかる費用を行政が補助する。（女性・30代・大森地域）
- 補助金の有効活用（男性・50代・大森地域）

（2）広域の地域を対象とした規制（9件）

- 地区ごとに説明会を定期的を実施すべき。自分の住む地域の現状を正しく理解認識を深めるため。さらには災害に強いまちづくりの具体案の説明が必要と思われる。
（男性・60代・蒲田地域）
- 区として近隣自治体・都・企業・ビル所有者と協議を重ね、重い腰を上げ、積極的に行動・推進する。（男性・70代以上・糎谷・羽田地域）
- 大田区の被害想定に基いた抑制計画を各項別に立案し、早急な実行プランを作成し地区毎の説明会を行う。実行プランでは優先順位をつけて、プラン実行中の地震発生の場合も想定しその時点でも最小限に被害をとどめる。実行プランでタイムスケジュールの中に期間中に発生した時の被害想定値もプランの中で表現する。予算面では被害想定額の損害額（復旧費も含めて）想定し抑制計画予算の妥当性・効果額を計る。（男性・70代以上・蒲田地域）
- 規制の強化をもっと強制力を持って押し進める必要があると思う。周知を行う際には一般区民に分かりやすくかみくだいて説明をして欲しい。防災訓練のときも具体例を示して欲しい。（女性・40代・蒲田地域）
- 関東大震災の際、区画整理ができていない箇所、太平洋戦争で焼け残った古い街並みや狭い道路など今回延焼火災が指摘されている場所を焦点にあて、住民に危険性を訴え大胆に新しい街づくりを進めてほしい。東北の津波で被災した町の高台移転の検討のように新しい発想で議論すべき。また、関東大震災後の復興計画を進めた後藤新平東京市長の視点で災害に強い新しい街づくりを進めるべき。直下型大震災は必ず来る。時期が不明なだけ。来たら想定されている事故以上の災害規模になる。今検討し対策をとることがどれだけ有効であるかを認識するべきだと思います。（男性・70代以上・調布地域）
- 明らかに延焼火災災害の発生の恐れのあるところは私権の制限もやむを得ない。ただし十分な住民討議・説明を。（男性・70代以上・調布地域）
- 住民に対して予測される地震、災害の説明が必要。そして被害を最小限に抑えるためにはどうしたらいいかを説明し理解を得る。そうすれば規制の強化なども住民は受け入れると思う。（男性・60代・調布地域）
- 安全のための規制強化は、震災後すぐの今なら受け入れられやすいと思う。記憶の風化が進む前に、積極的に実施すべき。（男性・40代・蒲田地域）
- 個人が自己の延焼火災を十分に注意するのが第一であるが、ある程度の規制の強化はやむを得ないのではだろうか。（男性・70代以上・調布地域）

（3）規制を行うことに対する意見、規制の内容に対する意見（6件）

- 延焼火災等の弊害を除去するには地上権とも関わる資産の問題も発生します。従って行政の規制により個人の生活権が阻害されないよう、十分な配慮により、実施を要望します。
（男性・70代以上・糎谷・羽田地域）
- 今までできないことがこれから先の資金繰りができるのですか。歳入の30～40年分も借金している官僚と政治家の方々と区民（国民）がどんな工夫できるのか心配です。現在の東京の歳入が地方自治体の歳入より多い事も頭に入れておいて下さい。国・都・区担当者のコメントがほしい。（男性・70代以上・蒲田地域）

II アンケート調査（第2回）

- 規制の強化ばかりしても、今後高齢化・古い家などに住まざるをえない方々が沢山居ると思います。延焼火災・災害を全体的にとらえ、区民が生きられるように考えることも大事だと思います。（女性・60代・糀谷・羽田地域）
- 緊急対策は重要ですが、災害はいつ訪れるか分からないという不安の中で、地域ごとの状況を把握して徐々に整備して行って頂きたいと思います。（女性・60代・蒲田地域）
- 大田区は特に中小・零細企業が多いため、個人、企業への負担が大きくなりすぎないような規制づくりが必要と考える。（女性・30代・調布地域）
- 建物を不燃化することなんて、今さらできるのですか。多摩川の河川敷が避難場所になっていますが、川の近くで大丈夫なのですか。災害対策は個人レベルで考える、自分の身は自分で守ることが第一だと思うので、ポスターなどを作って、呼びかけるのはどうですか。（女性・50代・調布地域）

4 その他の意見（3件）

- 3・11地震、津波の教訓、及びミュンヘン再保険の自然災害インデックスは東京-横浜が710及び大阪-神戸-京都が92で、世界順位4位以内、サンフランシスコ湾が167、ロサンゼルスが100（http://www.munichre.co.jp/public/PDF/Topics_Risk_Index.pdf参照）を認識し、国際空港のある先進都市との比較評価し、ミュンヘン再保険の自然災害インデックスが10位以下に下がることを目標に調査検討を加速してください。（男性・70代以上・大森地域）
- 延焼火災も問題だが津波の方が問題。品川区のように現地点が海拔何mなのか標識が必要。ぜひつけてほしい。防災意識が高まる。（男性・50代・蒲田地域）
- 道路に面して自動販売機や空調の屋外機などがあり、また道路にはみ出した看板など、緊急車両の妨害になるので、再度規制が必要である。現在の街づくりは、安全で平和な時代を想定して建設しており、地震や災害のことはまったく考えていない。（男性・60代・大森地域）

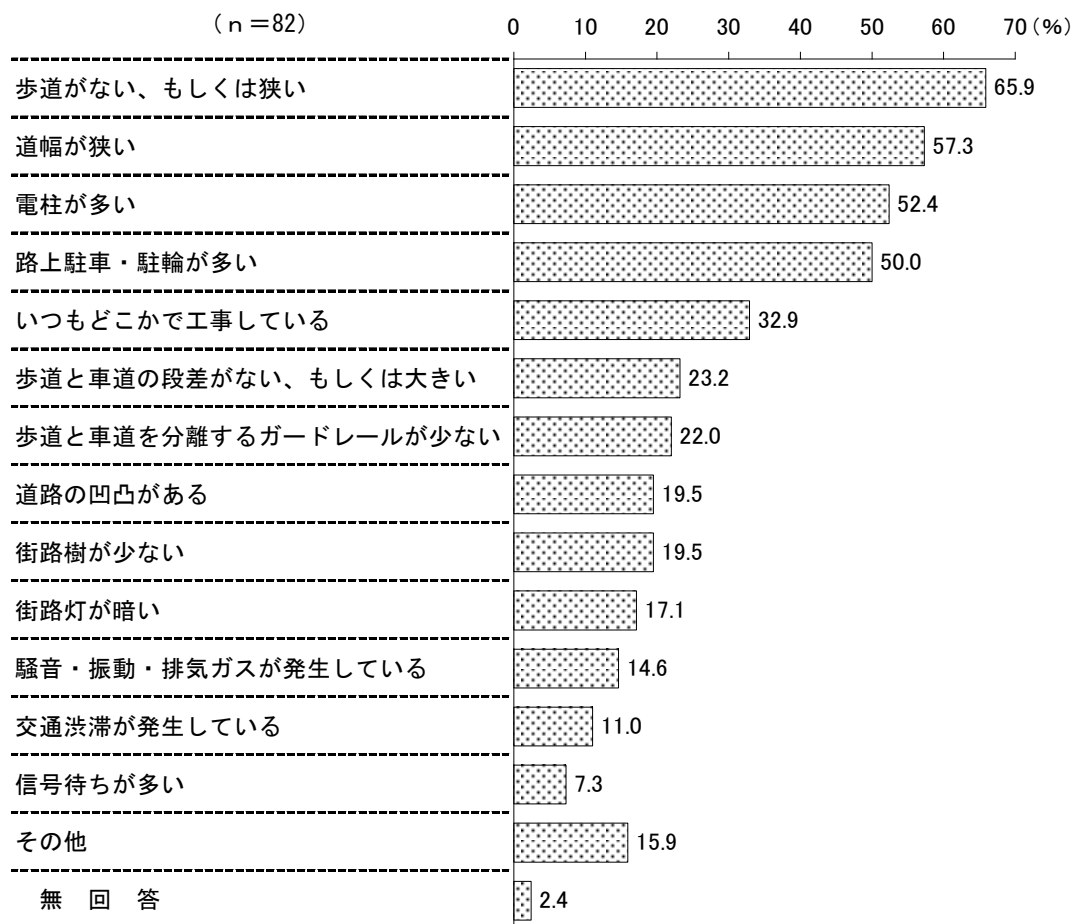
3 道路の整備と維持管理

(1) 道路に対する不満

道路には、人や物資を移動させるための「交通機能」の他、生活に欠かせない電気・ガスや上下水道を収納する、風通しや日当たりなどの住環境を改善する、また、災害時にオープンスペースとして延焼を防ぐ「空間機能」、そして、まちの大きさや形の骨格となり、まちを支える「市街地形成機能」といった、様々な機能があります。

大田区内には国道・都道・区道があり、それぞれ分担して整備・維持管理していますが、「現在の道路」について、どのように考えているかがいます。

問8 あなたは、道路を利用している時に、どのように感じていますか。(〇はいくつでも)

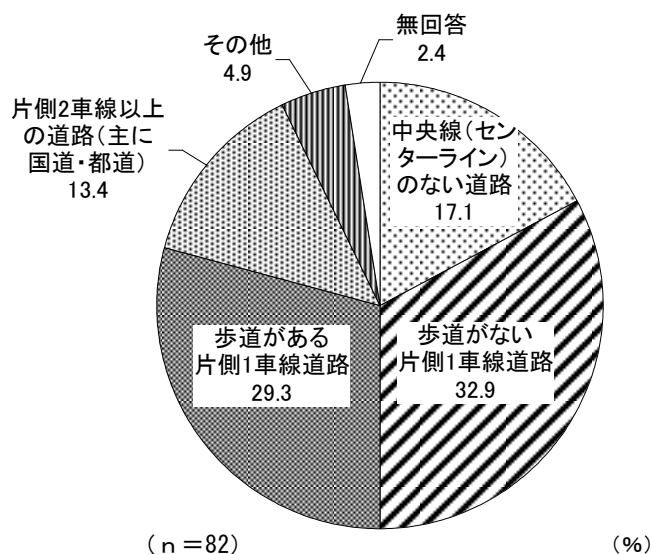


道路を利用しているときに感じている不満は何か聞いたところ、「歩道がない、もしくは狭い」が65.9%で最も高く、次いで「道幅が狭い」(57.3%)、「電柱が多い」(52.4%)、「路上駐車・駐輪が多い」(50.0%)、「いつもどこかで工事している」(32.9%)などの順となっている。

II アンケート調査 (第2回)

(1-1) 不満を感じる道路

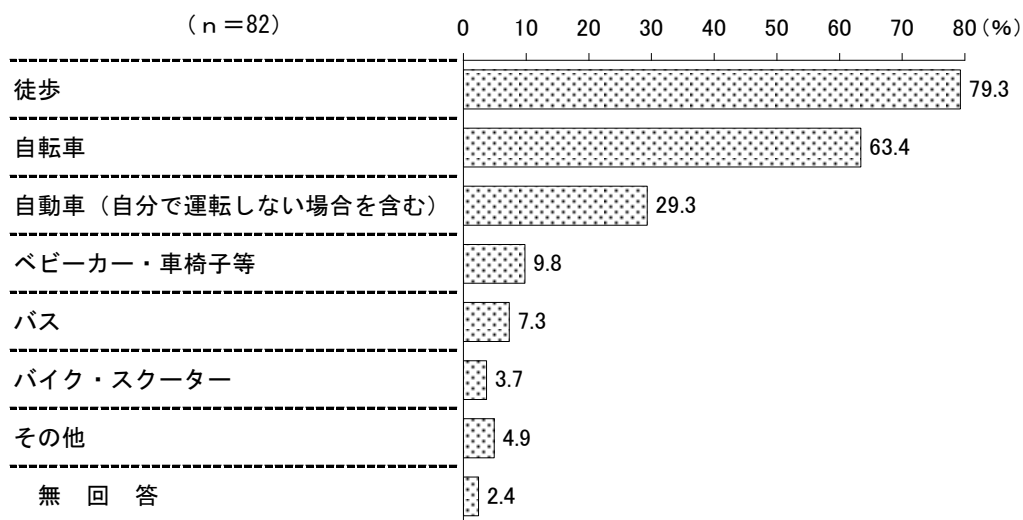
問8-1 問8のように感じるのは、主にどの道路を利用している時ですか。(○は1つ)



問8で答えたような道路に対する不満は、主にどの道路を利用しているときに感じるか聞いたところ、「歩道がない片側1車線道路」が32.9%で最も高く、次いで「歩道がある片側1車線道路」(29.3%)、「中央線(センターライン)のない道路」(17.1%)、「片側2車線以上の道路(主に国道・都道)」(13.4%)の順となっている。

(1-2) 不満を感じる交通手段

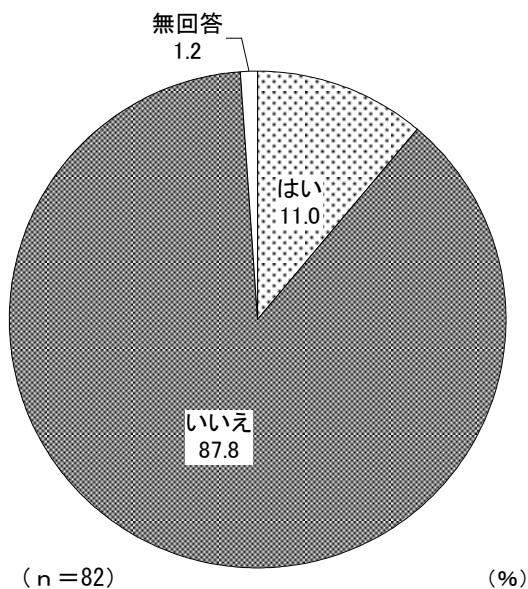
問8-2 問8のように感じるのは、主にどのような利用手段の時ですか。(○はいくつでも)



問8で答えたような道路に対する不満は、主にどのような利用手段の時か聞いたところ、「徒歩」が79.3%で最も高く、次いで「自転車」(63.4%)、「自動車(自分で運転しない場合を含む)」(29.3%)などの順となっている。

(2) 「道路工事調整会議」の認知度

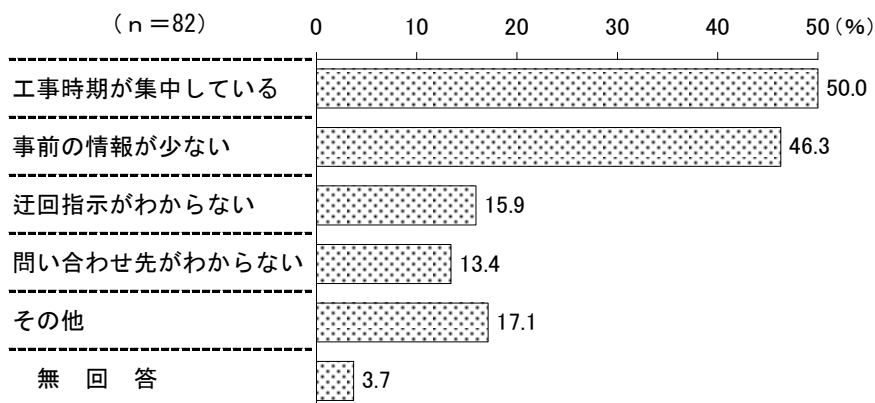
問9 道路を整備・維持管理するために道路工事は必要不可欠ですが、国・都・区や埋設企業（電気・ガスや上下水道など）者が実施する工事の時期・箇所等を調整する「道路工事調整会議」についてご存知ですか。（○は1つ）



国・都・区や埋設企業（電気・ガスや上下水道など）者が実施する工事の時期・箇所等を調整する「道路工事調整会議」を知っているか聞いたところ、「はい」は11.0%となっており、「いいえ」が87.8%と高くなっている。

(2-1) 道路工事に対する不満

問9-1 道路工事についてどのように感じますか。（○はいくつでも）



道路工事について不満を感じていることを聞いたところ、「工事時期が集中している」が50.0%で最も高く、次いで「事前の情報が少ない」(46.3%)、「迂回指示がわからない」(15.9%)、「問い合わせ先がわからない」(13.4%)の順となっている。

(3) 今後の道路整備で最も重視すべき機能

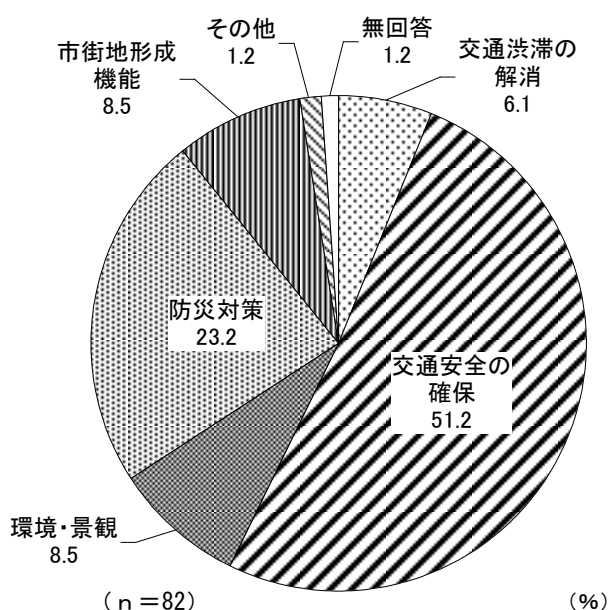
道路整備にあたっては、かつての自動車を中心とした考え方から、今後は、緑の保全や創出（植樹帯などの充実）、ユニバーサルデザイン（※）、自転車通行帯の設置など、歩行者や自転車への配慮がより重要になっています。

※ユニバーサルデザインとは

バリアフリー（高齢者や障がいのある方が生活を営む上での障壁（バリア）を取り除く考え方）の考え方を一歩進め、年齢、性別、国籍（言語）、個人の能力に関わらず、あらかじめできるだけ多くの人が利用しやすいように生活環境を構築する考え方

問10 あなたは、今後の道路整備でどのような視点を最重要視すべきだと思いますか。

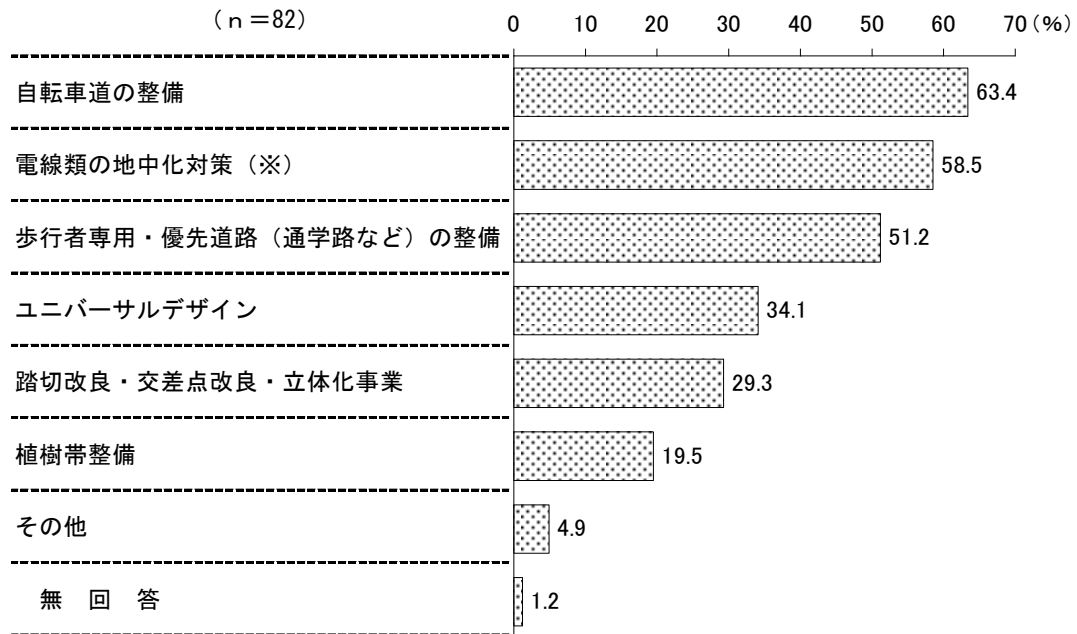
（○は1つ）



今後の道路整備でどのような視点を最も重視すべきだと思うか聞いたところ、「交通安全の確保」が51.2%で最も高く、次いで「防災対策」（23.2%）、「環境・景観」、「市街地形成機能」（ともに8.5%）、「交通渋滞の解消」（6.1%）の順となっている。

(4) 今後の道路整備で特に配慮すべき事業

問11 道路整備にあたって、特に配慮すべきと考えるものを選んでください。(〇はいくつでも)



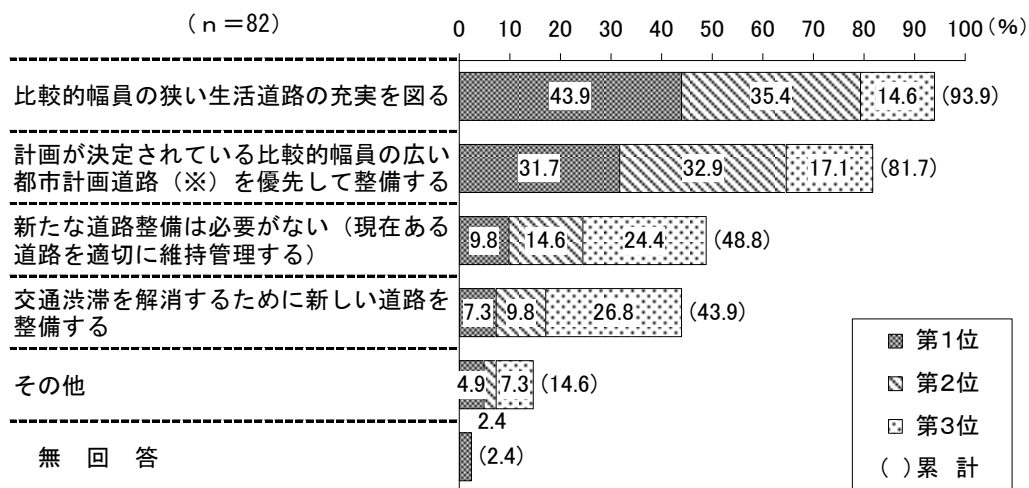
※電線類の地中化対策とは

安全で快適な歩行空間の確保、都市防災機能の向上、都市景観の向上を目的に、電柱などを地中化する考え方

道路整備にあたって、特に配慮すべきと考えるものは何か聞いたところ、「自転車道の整備」が63.4%で最も高く、次いで「電線類の地中化対策」(58.5%)、「歩行者専用・優先道路 (通学路など) の整備」(51.2%)、「ユニバーサルデザイン」(34.1%)、「踏切改良・交差点改良・立体化事業」(29.3%)などの順となっている。

(5) 今後の道路整備の優先順位

問12 あなたは、今後どのように道路を整備すれば良いとお考えになりますか。優先すべきだと思うものから順位をつけて、下の回答欄に番号を記入してください。



※都市計画道路とは

都市計画法に基づき、将来の都市像を踏まえてルートや幅員があらかじめ計画されており、都市の骨格となり、まちづくりに大きく関わる道路

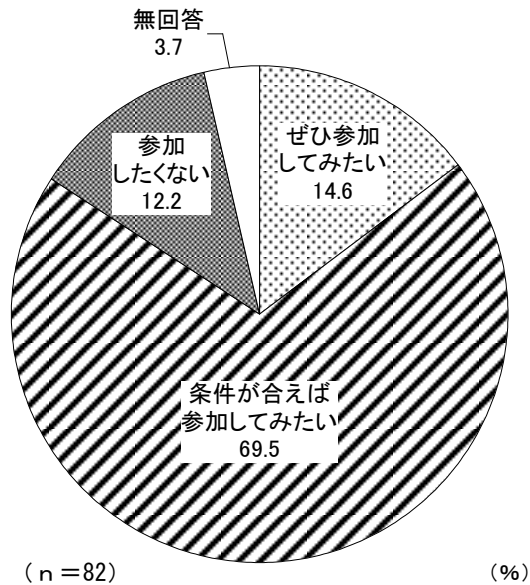
今後どのように道路を整備すれば良いと思うか、最も優先すべきだと思うものから第3位まで順位をつけて聞いた。

最も優先すべきもの(第1位)では、「比較的幅員の狭い生活道路の充実を図る」が43.9%で最も高く、次いで「計画が決定されている比較的幅員の広い都市計画道路を優先して整備する」(31.7%)、「新たな道路整備は必要ない(現在ある道路を適切に維持管理する)」(9.8%)の順となっている。

第1位から第3位までの累計では、「比較的幅員の狭い生活道路の充実を図る」が93.9%で最も高く、次いで「計画が決定されている比較的幅員の広い都市計画道路を優先して整備する」(81.7%)、「新たな道路整備は必要ない(現在ある道路を適切に維持管理する)」(48.8%)の順となっている。

(6) 地域を主体とした区道上の植栽帯の維持管理への参加意向

問13 大田区では、区道上の植栽帯（駅前花壇やフラワーポットなど）を地域の方々に主体となって維持管理していただくよう、地域力を生かした「花と緑の魅力あるまちなみ」を目指しています。あなたはこの活動に参加したいですか。（○は1つ）



区道上の植栽帯を、地域の方々が主体となって維持管理する「花と緑の魅力あるまちなみ」を目指す活動に参加したいか聞いたところ、「ぜひ参加してみたい」が14.6%、「参加してみたい」が69.5%となっている。「参加したくない」は12.2%である。

3-1 自由意見

問14 大田区の道路行政について、あなたのご意見をご自由に記入してください。

大田区の道路行政についての意見を自由記述形式で聞いたところ、49人から57件の回答があった。内容を分類した上で、以下、原則として記述の原文を掲載する。

1 道路整備に対する要望（17件）

（1）生活道路の整備（13件）

- 自分が利用する道路に限っていえばどこも歩道が狭い。中でも迷惑な自転車通行が多い。暗闇でライトをつけずに携帯を見て、イヤホンをして走るなどしているの、道路というより道路上でのルールをまずは徹底するべきだと思う。そうでないとただでさえ狭い道路が災害時に混雑することは必至。（女性・30代・大森地域）
- 歩行者・自転車などの生活者優先の整備を考えて欲しい。（男性・70代以上・調布地域）
- セットバック計画の道路がみられるが進展が遅い。私有権の難題もあると思われませんが強力に進めるべきです。（男性・70代以上・大森地域）
- 災害時には火災の延焼を防ぐため、広い道路が必要かと思うがそれは主に国道や環7である。日常的に使う身近な区道や都道は快適であることが第一。段差のない街路樹等の緑のある、自転車による危険のない、歩行者のための歩道のある道路を望む。（女性・60代・大森地域）
- 自転車・歩道・車道の分離帯を設けるようにして欲しい。（女性・60代・大森地域）
- 呑川沿いの道路整備、桜並木の復活。橋周辺は起伏が多く、車椅子や自転車でも不便を感じます。多少かさ上げして少しでも緩かにできると良い。（男性・60代・大森地域）
- 家の近くにも高低のでこぼした道が線路の近くにあったり、私をふくめて老人の方達が転んだりして危ない道路があります。安心して歩ける、白い杖を持っている方々もゆっくり歩ける道路をよろしく願い申し上げます。（女性・60代・調布地域）
- 道がせまいので、車を運転している方、自転車に乗っている方は歩行者に注意して欲しい。（女性・30代・蒲田地域）
- 狭い所にむりやり歩行者用のラインを引いているが、現状は電柱などがあり車道を歩くようになってしまう。計画・実施した人々が本当に意味あるのか、安心して使用できるのかちゃんと検証してほしい。意味のない工事は税金のむだ使いでしかないとします。（女性・40代・蒲田地域）
- 緊急自動車がスムーズに通行出来る道路幅員をとってほしい。（女性・70代以上・蒲田地域）
- 少しずつ立体交差ができて良くなっているが、小さい道路の整備も多くしてほしい。（女性・60代・糎谷・羽田地域）
- 生活道路をあまり広くして欲しくありません。スピードを出し過ぎた車や、混雑を避けて入ってくる車が多くなったら、子どもたちがうかうか遊んでいられなくなってしまいます。（女性・60代・大森地域）
- 一方通行にしなくてもいいような道が一方通行だったり、とても狭い道が両側通行だったりします。（女性・50代・調布地域）

(2) 幹線道路の整備 (1件)

- 外環道の大田区区間の整備はとても無理。区としては首都高川崎縦貫線との一体化を推進すべき。新たな道路は不要だが、第一京浜の都市計画決定されている拡幅区間の残り区間は早急に事業化すべき。(男性・40代・蒲田地域)

(3) 自転車道の整備 (3件)

- 自転車道の確保は日常生活の上で必須と思います。また、不必要な自動車の使用を制限するためにも大切と思います。(男性・70代以上・調布地域)
- 歩道が狭いところが多く、自転車は車道を走らざるをえない状況になってしまうと思います。自転車用の道を作るスペースがないところも多いと思います。(女性・50代・調布地域)
- 幹線道路での自転車専用レーン新設・整備。自転車に対する、整備・配慮をまず優先。規制・取締りはその後の問題。(男性・70代以上・調布地域)

2 防災対策について (1件)

- 直下型大震災を考えての施策が第一と思います。(男性・70代以上・調布地域)

3 道路工事について (5件)

- つぎはぎだらけの工事あとができないようにもっと工事の連携をとって欲しい。(女性・40代・蒲田地域)
- 水道管工事で道路が掘られた後の埋めた道はぼこぼこで、再度整備するまで時間がかかっている。どうにかしてほしい。(男性・20代・糎谷・羽田地域)
- 道路工事はその地域の業者に優先して施工させるべきである。(男性・70代以上・糎谷・羽田地域)
- 自宅近くで長い間道路工事をやっていますが、ガードマンの指示が下手で困ります。(男性・40代・糎谷・羽田地域)
- 道路の凹凸、道路勾配により雨水が流れないなどの不良か所は予算の許す範囲で計画的に実施すべきである。また、区内全道路は定期的に清掃が必要。(男性・60代・蒲田地域)

4 植栽帯の整備について (9件)

- 道路の植栽帯整備のために、自治会へ支援を強化し費用の助成もしてほしい。(男性・70代以上・大森地域)
- 初夏に、近くの歩道に植えられた樹木の剪定して丸裸状態になっていたが、作業の時期を考えてほしい。道路上を含めた付近のごみが目につくが、それに対処するアイデアを募集してはどうか。(男性・60代・大森地域)
- 街路樹の統一感がなく、きれいな感じがしない。(女性・40代・調布地域)
- 植栽の写真展示を行って表彰する。(男性・30代・糎谷・羽田地域)
- 景観・植樹等により美しい道路作り。(男性・60代・蒲田地域)
- 全般的に大田区の区道は植栽帯が少ないと思います。(男性・70代以上・調布地域)
- 緑をもっと増やしてほしい。せつかくなら歩いていて楽しくなる道路にしてほしい。ぼつ

II アンケート調査（第2回）

たり人とあって会話が弾んだときなどに、ベンチがあってもよいと思う。

（女性・30代・蒲田地域）

- 学校の近くの道路沿いの桜は本当にきれいで、区民の憩いの場所になっていると思う。

（女性・50代・調布地域）

- 道路の植樹は、場所や時期によっては視界をさえぎり安全運転に支障をきたしています。右折、左折等の時視界が遮られ困ったことが幾度もあります。まず安全な視界の確保を第一にしてもらいたいです。（男性・40代・蒲田地域）

5 違法駐車・駐輪、看板などによる道路の占用について（7件）

- 渋滞の一つの原因に違法駐車・駐輪がある。これを解決すること。

（女性・70代以上・蒲田地域）

- 違法駐車が多い。銀行附近、商店の荷降し積込みなどは区行政の範囲でないかもしれないが、駐車場を設置するのも区政の責任とならないか。（男性・70代以上・大森地域）

- 幹線道路の商店街・駅付近の歩道上の駐輪自転車の指導・取締り、マナーの向上。

（男性・70代以上・調布地域）

- 放置自転車の徹底回収。（男性・60代・大森地域）

- 災害時の安全、延焼防止の観点から、道路上から不要なものをなくし、レスキューの通行確保や区民の通行確保を優先的にやってほしい。（男性・70代以上・大森地域）

- 歩道が使いにくいところが多い。池上駅周辺のカラオケ店前のゴミ置き場はゴミが多く、かつ回収時間が遅いようで、歩道いっぱいゴミが置かれ、ベビーカーがまったく通れない。せっかく歩道があっても活用できないようでは意味がない。（女性・30代・大森地域）

- 区道上、特に狭い道路に植木等を置いていると通行の妨げになり、特に交差点には絶対置いてはならないよう指導を徹底してほしい。多くの商店街では、当然のように道に商品を展示している。そのため、車が来た時避けられないので危険で、何度も経験している。これらは、道路交通法違反なのではないでしょうか。もしそうであれば警察に連絡して良いのでしょうか。また、区道上に商品等を展示することのないように強く指導してほしい。交通事故が発生してからでは遅い。命に係わることで至急対処をお願いします。

（男性・70代以上・調布地域）

6 今後の道路整備の視点について（5件）

- 本当に必要な道路を整備すべし。（男性・20代・糀谷・羽田地域）

- 市民、区議会、行政が参加して10年、50年、100年プランの道路計画プロジェクトチームを編成して継続的な議論とまとめ、A3・1枚程度にまとめて区報に掲載し、毎年見直しを行う。（男性・70代以上・大森地域）

- 第一に道路の基本目的である安全を最優先にすべき（安全第一）。次に効率化（効率第二）。次に美化（美化第三）。次に現状道路の見直し、新設・改善道路に着手する。上記のステップで行政プランをまとめ実施（順次）する中で区民各自体の協力をあおぐ。

（男性・70代以上・蒲田地域）

- 道路整備より、工場、市場等の配置で交通量の削減を図るべき。また、原発廃止や人口減

で日本産業の衰退や物流量の減少は必須だから、新規道路の建設は基本的には不要である。

(男性・70代以上・大森地域)

- 今後の道路整備はかつては自動車中心とされてきた考え方から歩道の方へも向けられます。今後の道路整備は市街地形成機能を重視するべきではないでしょうか。

(女性・50代・蒲田地域)

7 道路行政に対する意見 (3件)

- 机の上ではなく、毎日一定の時間で、巡回して自分の足で確認すれば現状がわかると思う。

(男性・70代以上・調布地域)

- 地域で要望した事柄について、予算を始め種々の事情等により物事を進行できない場合もあると思いますが、結果について説明して欲しい。(男性・70代以上・糎谷・羽田地域)
- 意見を述べても、聞いてはくれるが、なかなか行動が伴わない印象。予算や人件費などいろいろ考えなければならぬこともあるのはわかるが、どこかで大きな判断、区民への負担の増加もきめていかないと、なかなか前に進まないと思う。行政力をもっと強くして、良い方向に皆をひっぱって行ってほしい。道路の幅拡大などはそこに住む住民たちを一人一人説得するなど大変な労力が必要とは思いますが、安全な生活の確保、防災時の対応強化、被害を最小限に食い止めるためなど、いろいろなことに対する必要性から早期にとりくんで、実現して行ってほしい。(女性・30代・糎谷・羽田地域)

8 その他の意見 (10件)

- 坂の名前がついているが、その表示説明板が頻繁に綺麗になっているがその経費を削って、歩道の確保や樹木の整備などにまわせるのではないか。(女性・40代・調布地域)
- なんとしても主な道路の電柱を地下に整備して下さい。(男性・70代以上・蒲田地域)
- 以前に比べて車の交通量が減り、渋滞も少なくなってきたように感じます。ただ、我が家の隣はバス通りですが、騒音や排気ガスの点では、まだまだ問題があります。何とかしてこれらの問題を減らすような道路行政をぜひお願いしたいです。(女性・50代・大森地域)
- 一方通行で時々、逆走してくる車がありますが、標識が見にくいのではないかと思います。(女性・60代・糎谷・羽田地域)
- 防犯カメラの拡充と防犯灯のLED化の促進。(男性・60代・蒲田地域)
- 皆さんのご協力でゴミを捨てないできれいな町をつくりましょう。(女性・50代・蒲田地域)
- 今のままで良い。(男性・50代・蒲田地域)
- 今のままをとりあえず、整備してください。(女性・60代・蒲田地域)
- 近隣の生活道路は徐々に整備されて安全性も高くなっているように思いありがたいことです。快適な街作りには住民の心掛け・協力も大切なので都市計画の円滑な遂行を期待しています。(女性・60代・蒲田地域)
- 2700年も先輩達が築いた地区、後輩達にもよりよい地区にして渡したいものです。(男性・70代以上・蒲田地域)

